

ニュージーランド北島の最近の地殻変動

寒川 旭 (環境地質部)
Akira SANGAWA

ニュージーランド北島は 第四紀の地殻運動の研究において大変興味深い地域である。ケルマデク海溝・ヒ克蘭ギ海溝に平行する東海岸には 海成段丘面が明瞭に発達し 海溝沿いの大地震に伴って著しい隆起が進行していることがうかがえる。内陸部の中央にはラウハウブル・トラフの陸上延長部と考えられている中央火山地帯が発達しており 活火山および火山性の正断層群が顕著にみられる。さらに西方のオークランド周辺などには多くの活火山が分布している。1984年2月のRCMシンポジウムの北島巡検に際してこれらを一通り見学することができた (本文参照)。

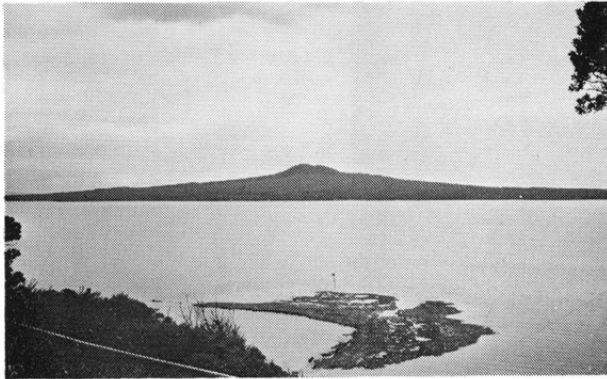
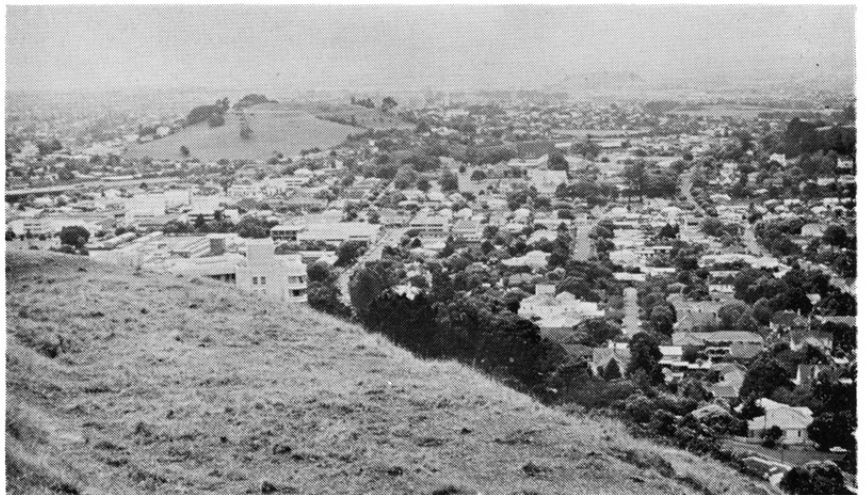


写真1 760年B. P. に噴火したランギトト火山。

写真2
ウエリントン市の南に分布するスコリアコーン



第1図 ニュージーランド北島 (図中の数字は写真撮影地点を示す)。



写真3 スコリアコーンの頂きにある噴
火口内にある小さなマウンド
(マウント・マンゲレ)



写真4・5 マウント・タラウエラの
頂きに発達するリフト(表紙
参照)





写真6 タウポ火山帯に発達するパエロア断層の断層崖（崖沿いに熱水作用による水蒸気が昇っている）



写真7 テーブル岬周辺に発達する完新世の海成段丘面とその前縁に広がる海食台

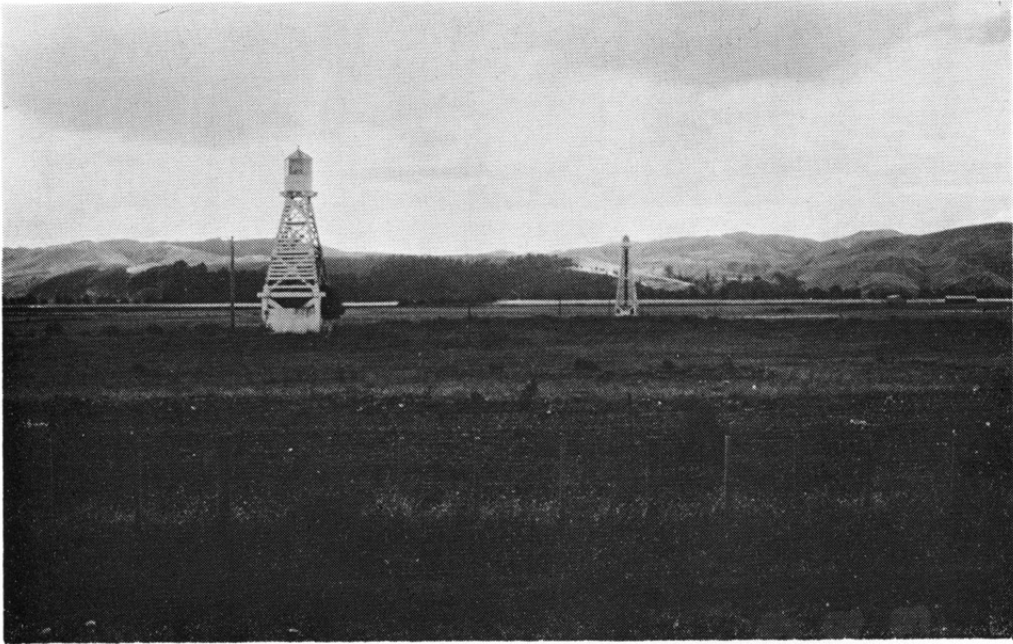


写真8 1931年のネーピア付近の大地震に伴う隆起によって広く陸化したラグーンとそこにある燈台

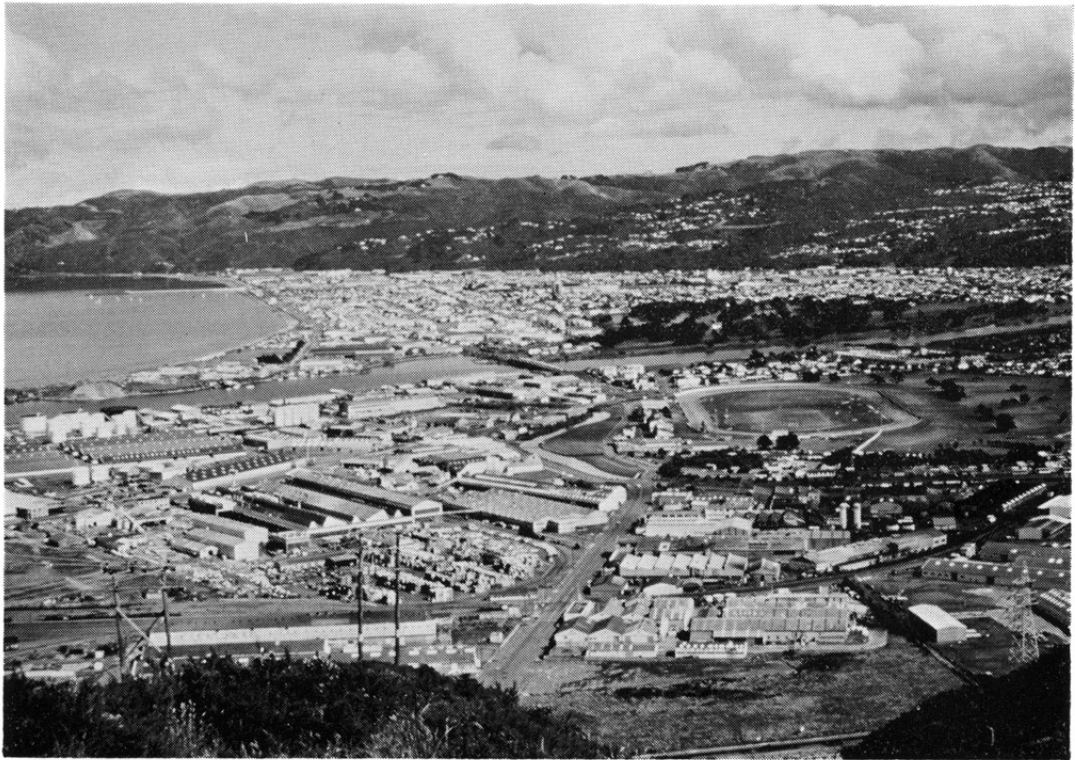


写真9 1855年の巨大地震により隆起・陸化したロウアーハットの西部の海岸地域